

教科	・児童の課題○重点目標	具体的な授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の細かい部分を誤って書いたり、使い方を間違えたりすることがある。 ・文章を書く力が弱く、主語述語の関係がずれてしまったり、接続詞の使い方が違っていたりする児童が多い。 ・促音、拗音を理解し、的確に文章を書けないことがある。 ・じっくりと連続テキストに向かおうとする意欲が持続できない児童がいる。 <p>○相手に伝えたいことを話す力、話の内容を理解できるくらいの聞く力を付けることを重点目標とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字学習を行う際、漢字の成り立ちや意味についても触れながら理解を深め、漢字を誤って使用した時には、意味や成り立ちを思い出させる。 ・日記や創作作文などの書く活動を取り入れ、文章を書くことへの苦手意識を克服させていく。 ・書いたものを読み返して正しい文章にするなど、推敲の仕方を指導する。 ・児童の実態に応じた課題の量や質を調整し、自分で決めたゴールに向けて学習を進めさせる。 ・声の大きさや速さに気を付けた話し方、姿勢、目線を意識し、話の大事なことを押えられる聞き方を身に付けさせる。（学び方の定着）
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・文章題を読み、何算になるか判断し、処理する力が不十分である。 ・繰り上がり、繰り下がりの加法や減法の計算力をより伸ばし、加法、減法についての理解を深める必要がある。 ・学習している単元はできるが、しばらく経つと、前に学習した内容のやり方を忘れてしまうことがある。 <p>○計算問題を速く正確に解くこと、文章を読み取って立式することを重点目標とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージ化のために絵や図を提示するようにする。 ・具体物を数えたり、図を描いたりなどの作業や数学的活動を多く取り入れる。また、ブロック、計算カードなどの道具が活用できるようにさせる。 ・朝学習の時間や、すきま時間に、クロームブックのアプリを活用して、自分に合ったドリル学習に取り組みさせる。 ・文章問題で、わかっていること、聞かれていることに線を引き、文章問題を正しく読み取り立式する力をつける。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・目的をもって、地域の自然や人、友達と進んで関わられるようにする。 <p>○具体的な活動や体験を通して、自分と周囲とのかかわりについて考え、自分の思いや考えを適切な方法で表現できることを重点目標とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが「もっと知りたい」「やってみたい」という気持ちを大切に、学習を進めていく。 ・町探検や仕事場訪問（お店訪問）を行い、地域との関わりの多い活動を取り入れる。 ・異学年との交流活動を計画し、様々な立場の人と関わる場を設ける。 ・活動を通じて得た自分の考えを、ペアやグループで交流する機会を設け、気付きの質を高める。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカでは、指の番号と指の名 	<ul style="list-style-type: none"> ・指の名前と指番号が一致するようにイラストを

	<p>前が一致していなかったり、楽譜をみながら演奏することに苦手意識をもったりしている児童が多い。</p> <p>○基本的な演奏技能を身に付けることを重点目標とする。</p>	<p>掲示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指番号で歌唱したり、階名唱をしたりする活動を繰り返し取り入れ、楽譜を見なくても鍵盤ハーモニカに集中して演奏できるようにする。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に活動に取り組み、楽しみながら表現している児童が多い。一方で活動の目的や意図を理解できず、表現の幅が狭まってしまいう児童が見られる。 <p>○造形的な面白さや楽しさを感じ、どのように表すかを考えることを通して、自分の見方や感じ方を広げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 導入で作品を紹介したり、技法や材料の生かし方に触れたりすることを通して、多様な表現の仕方を知る時間を設定する。 友達や自分の作品をじっくりと鑑賞する時間を設け、自分の見方や感じ方を広げる場を増やす。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 元気よく運動を楽しむことができる児童が多いが、用具を操作する運動や固定遊具を使った運動に苦手意識をもつ児童がいる。 具体的な技能向上のイメージをつかむことが苦手な児童がいる。 <p>○友達と一緒に運動をすることの楽しさを味わい、主体的に学習しようとする意欲をもたせることを重点目標とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> どの子も運動に取り組みやすいようにスモールステップで課題を提示したり、「〇〇ランド」などと場の設定を工夫したりすることで意欲的に楽しく学習できるようにする。 鉄棒・マット運動・縄跳びなどの動画を活用し、技能のポイントを分かりやすく伝える。 友達と見合い、アドバイスをしながら取り組める時間を設ける。 児童の実態に応じた活動や、ルールの改訂などの工夫を行う。

※ なお、各教科において、端末は対話的な学びや記録の蓄積等に常時生かすようにする。